2023 03

「辛夷（こぶし）」

夜空を見上げたら、真白い花が闇に浮かんでいた・・・
「おう、辛夷だ！」

もう十数年前に旅立ってしまった映画仲間で、花狂いの友、渡辺哲也のことを描いたパーソナルドキュメント『白い花はなぜ白い』を創ってから、白い花が好きになった。春を告げる花は、桜よりも「辛夷」だ、と私は思う。何とも言えず好きだ。

『白い花はなぜ白い』は、世の中的にほとんど知られていない伊勢真一作品。そんな、あまり知られていない自作のひとつ『ゆめみたか～愛は歌・田川律～』を観る機会が最近あった・・・主人公の田川さんが一月に旅立たれたので、追悼上映をやったのだ。

田川さんは音楽評論家だったのですが、70歳を過ぎてから歌手になりたいと言いつのり、歌い手としてデビュー。なんとも魅力的なシャガレ声で歌いまくり、88歳で逝ってしまった素敵な先輩だ。
『ゆめみたか』は、私がその田川さんに惚れ込んで付いてまわり、戦前・戦中・戦後の替え歌や好きなフォークソングの歌声を撮っているだけのロードムービー・・・。自由人・田川さんのカラダに染み付いた「自由」の香りを、軽いフットワークで描いて「オマエさん、もっと自由に生きなアカンデェ・・・」と観る人を挑発するような、ドキュメンタリーなのだ。
映画が完成したのは2008年だから、15年前。今の時代状況の方が不自由で不安であることに気付かされ、ゾッとする。

一緒に観た人に「伊勢さん、戦時中のプロパガンダ映画を撮り上げた作品『いまはむかし』のあとに、『ゆめみたか』ですか？ 戦争のこと、歴史のことを、マスメディアとは違った角度から探ろうとする連作、けっこう社会派じゃないですか。」と言われてしまった。誤解だけどね・・・。

ほとんど何も考えずに、その時気になる人、好きな人を撮っているだけのヒューマンドキュメンタリーを創り続けて来ただけだけど、逆にたくまずして、その時代、社会の、空気が写り込んでいる、ということかもしれない。

新作のライブドキュメンタリー『パスカルズ～しあわせのようなもの～』は、いわゆる音楽物だ。
「パスカルズの音楽を一言で言うと、“自由”ということだと思う。戦争とかと対極にある世界。いい感じ・・・ということかな。・・・うまく言葉に出来ないけど。」と、リーダーのロケットマツさんは呟く。
言葉に出来ないから、音楽にしたり映画にしたりするんだから・・・言葉になる前の思い、言葉になった後の思いを伝えるのが音楽や、映画ならではの世界だものね。

新作の『パスカルズ』と長編処女作の『奈緒ちゃん』がとてもよく似ている、と一月の完成上映会で言われたけど、少しも成長していない、ということか、ブレずにやってきた、ということか・・・。

今の現象を追いかけるのは、マスメディアやSNSに任せて、ただただ自分が好きな人や、好きな音楽や、好きな花や、好きな物事を撮り続けることにしよう。
きっと、そのことこそが、時代や社会を写し撮るドキュメンタリーに成りうるはずだと思うから。
10年経っても、100年経っても古くならない映画を創るには、自分が好きな人や物事をしっかり見つめ、撮り続ける以外に手は無いのだ・・・その立ち位置で踏ん張る。

闇の中に浮かぶ、真白い花「辛夷」
白い花はなぜ白いのか・・・
ワカラナイけど大好きな花だ。

伊勢　真一

カントクのつぶやき

二〇二三年 三月